

ふれあい

2016年 秋季号 vol.64

2016年(平成28年)11月20日発行

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 広報誌
TEL : 076-246-5600 FAX : 076-246-3914
石川県野々市市郷町262-2
http://www.nouge.net



病院
理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

心血管系疾患にも対応できる 脳神経外科専門病院を目指す



病院長
佐藤 秀次

本院は昭和55年の開院以来37年間、一貫として脳神経外科の単科専門病院としての道を歩んできました。現在は、脳卒中、脳腫瘍、三叉神経痛、顔面けいれん、背椎・脊髄疾患の手術治療のほか、パーキンソン病やジストニアの脳深部刺激療法にも取り組んでおり、手術レパトリーは拡大しています。

高齢化の進展があり、手術治療に必要な患者が増え続ける一方で、脳神経外科単科では対応の困難な患者が増えていることが悩みになってきました。例えば、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、すべり症などの腰椎変性疾患では、かつては想定できなかった80代や90代の患者の手術が増加しています。これら後期高齢者には心疾患、糖尿病、がん、腎疾患、呼吸器

疾患などで治療中の方が多く、出血を増長する抗凝固剤や抗血小板剤などを服用している方も多く見られます。そのため当院では、手術を安全に受けて頂くために循環器科医による術前チェックをルーチンに行っています。その結果、心疾患によるリスクが高いため、常勤の循環器科医がいない当院では「手術は無理」と判断される場合があります。このような時には、循環器科のある総合病院へ患者を紹介しますが、当院のMD法（小切開顕微鏡手術）を行う病院は少ないため、MD法で手術を受けたいとの患者の希望が叶わないことがあります。

さらに、当院が県内で最も多く受け入れている脳卒中患者は心疾患を合併していることがしばしばあります。例えば、重篤な脳梗塞の原因になる心房細動などがそうです。このような場合には、脳梗塞と心房細動の両方の治療が必要になり、循環器科医との協働が重要になります。これから先、心疾患を持った高齢者が増加する時代を見据えると、もはや脳神経外科単科では患者の手術希望

に応じることや治療の安全性を担保することは困難であると考えられます。本院が地域の急性期病院として、今後も役割を果たしていくためには、循環器科の併設は避けられないと認識するに至りました。このたび、脳血管内治療を推進するために脳血管造影装置をフリップスのバイプレーンに入れ替えます。これに合わせて、金沢医科大学 心血管カテーテル治療科 准教授 土谷武嗣先生のご協力を得て、心疾患を抱えた患者への対応の強化を図っていく所存です。今後も皆様に安心して治療を受けて頂ける病院作りを進めて参ります。

新任医師紹介

麻酔科部長 田中 康規

(たなか やすのり)

前の勤務先

金沢医科大学病院

患者さんに一言

患者さんにとつてストレスのない安全な周術期管理を心掛けています。



医療と介護の連携

地域医療福祉部
地域医療連携課

脳卒中になられた方が、地域で安心して質の高い生活を送ることができるよう、野々市市と白山市の介護サービスを紹介しています。

今回紹介するのは、『グループホーム（認知症対応型共同生活介護）』についてです。認知症の高齢者が少人数で共同生活を送りながら、身体介護や機能訓練、レクリエーションなどを受けることができます。日常生活に近い環境で家事などを行い、サポートすることで認知症の進行を緩やかにしています。

※介護保険の申請については、お住まいの地域の市役所にご相談ください。

野々市市役所（介護長寿課）

076-2227-6066

白山市役所（長寿介護課）

076-274-9529

地域の事業所紹介

グループホーム 白山ぬくもりホーム



（特色） 『福祉はすべての人のために』を理念とし、一人ひとりが人生の主役として輝き、満ち足りた毎日を送れるようお手伝いしています。当ホームの久楽会では、子供から障がい者、高齢者までの福祉事業に携わっています。

（職員） 介護職員5名（併設の特別養護老人ホームとの兼任で看護師1名）

（入居者） 18名
（ホーム長（介護職）より）

平成26年に開設した当ホームには、脳血管性認知症やアルツハイマー型認知症、アルコール性認知症などの様々な認知症を抱えた利用者さんが生活しています。短期記憶障害により、花見や外食したこともすぐに忘れていたり、帰宅希望が強くなることもあります。そんな時には、納得して安心できるように言葉を繰り返しかけています。こうし

た関係が二年も続いている利用者さんもあります。

また当ホームから倉光方面まで行つて帰ってくるという帰宅希望のある方もいました。それは半年間も続きましたが、常に一緒に散歩しながら、いろんな話をたくさんすることができました。

そして帰りたくなるのは、この場所に自分の存在価値を見出していないからだと思える環境作りと役割を一緒に見つけるお手伝いをしていきます。基本的に利用者さんは自分の気持ちを抑えている方が多いので、私達が先に察することで、少なくとも一日二回でも二回でも、できれば二回でも二分でも長く笑っていてくれたらうれしいです。こうした気持ちのやりとりと積み重ねが、絆につながっていると感じていきます。

（仕事に対する想い）

他業種から、六年前に初めて介護の仕事に携わりました。最初に関わった利用者さんは、ターミナルで体が痛はずなのに、亡くなる直前まで、いつもこちらの心配ばかりしてくれました。アイスを一口食べるのもやとなのに、介助すると「痛くない？」や「ありがとう」という私達に対する気遣いに、とても驚きました。今思うとこの出会いがなかったら、介護の仕事は続けていなかったかもしれません。素敵な利用者さん

との出会いが、この仕事は本当にすごいと感じさせてくれました。

利用者さんが安心して日常生活を送ることができるように、利用者さん一人一人をよく知り、話し方や声のニュアンスなども考えて接していただきます。うまくいかないことがあっても、必ず成功法を見つけて、次から対応できるようにしています。全てが経験となり、今では力となつていきます。この経験が、利用者さんとの距離を深め、家族のように近くに感じてくれるようになります。だから私達との絆だけは、どんな時でも絶対に忘れないのかもしれない。



白山ぬくもりホーム

住所 石川県白山市ハツ矢町124番地1
TEL 076-275-8575

地域医療連携課トピックス

9/10 救急フェア【山本副院長】

9/19 健康ふれあいフェスタ2016

10/19 しんきんビジネスフェア

10/24 河北認知症を地域で考える会・

10/28 加賀脳卒中地域連携協議会コ

10/28 平成28年度第2回救急症例検討会

患者さんコーナー



石川県鳳珠郡能都町在住

広瀬みち子 様

腰部脊柱管狭窄症の手術を受けて

拝啓 私は今春腰部脊柱管狭窄症の手術を受けました。8年近く治療院へ通い続けていました。というのも手術をしても寝たきりになる人が多いと聞かされ、手術はしないと心に決めていたのです。その間あつちの治療院、こちの治療院と行きましたが、どこへ行ってもあまり思わしくありませんでした。8年近く治療院へ通っているのに治らないな一と思いつつ、散歩していた時のこと、急に太股あたりからふくらみ、くるぶしにかけてビーンと痛みが走ったのです。これでは散歩どころではないと思い家に帰って湿布して安静にしていたのですが、痛みはますます激しくなる一方です。翌日、総合病院へ行き、先生は「とりあえず薬を出しておきます。また1週間経ったら来て下さい。」と言われ、その日は帰りました。次の日の夜寝て

いたら寝返りも出来ない位の痛みに襲われ、くるぶし、爪の先までしびれ、痛みが走り寝られないまま朝を迎えました。その日再び病院へ行き、尾てい骨に注射をされ、あのとときの痛みは忘れることが出来ません。その後1ヶ月に1回の通院、薬を貰って飲むだけの毎日でした。この薬は一生飲み続けなければならぬのかと思うと、怖くて仕方がありませんでした。ある日近所の方が「私も腰の手術を受けて、今は元気になりました。」との事。そんな病院があるなんて信じられませんでした。

二ヶ月ほど前に、ある病院で腰の手術はできませんとの事でしたので、余計に信じられませんでした。初めは半信半疑だったので、思案の末、貴病院の受診を決めました。院長先生の診察では「腰部脊柱管狭窄症」「変形性腰椎症」という診断でした。先生がおっしゃるには神経が圧迫して痛み、しびれが生じるのだとおっしゃいました。実は二〇年程前に帯状疱疹になり、その時先生が「帯状疱疹は治りますが、後、神経痛になりますよ。」といわれ、どうしてそんな神経痛になるの

かと思うくらいで、さして気にも止めていませんでした。院長先生のお話を聞き、「あ、なるほどそういう事だったんだ」と、思い当たることしきりです。その話を聞いてから、先生への信頼はますます深まっていきました。手術をするならこしかならないと思うほどになり、手術の日を一日千秋の思いで待っていました。

その頃は台所に立っていると、もう腰が痛く我慢できなくなり仰向けになって腰を伸ばし30分ほど休みまた、台所に立って炊事をするという毎日が続いていました。そしてようやく手術の日を迎え無事に終えることができました。手術の終わった後の痛みは全くとっていいほどありませんでした。本当に不思議なくらい痛みはなかったのです。看護師さんに「痛み止めの薬をお持ちしましょうか?」と聞かれ「今は痛くないので痛くなったらお願いします。」と言って飲みませんでした。あれほど痛かったのがうそのようです。術後、次の日からトイレなどへスツツと歩いていけるのも驚きでした。

その後、佐藤病院長、主治医の竹内先生、リハビリの本谷先生、

看護師の皆様のおかげで、こうして退院することができました。こんな事ならもっと早く手術を受けていれば良かったと悔やまれてなりません。あの八年間の痛みは何だったのか...と、病院にいるときは何もしてないのでこれで治ったのかと思うくらい痛みはありませんでした。退院後、やはり家事をすると病院にいるような訳にはいかず、痛みやしびれはありましたが、半年経った今ではさほど苦にはなりません。台所にも昨日なんかは二時間以上立っていました。気がつく料理は何品も出来ました。煮物、野菜サラダ、焼き魚、酢の物など...主人は驚いていました。私も「ニンマリ」。この喜びは、治った人にしか味わえないな一と思っているこの頃です。この調子だと普段の生活に戻る日はさして遠くないと確信しております。コルセットはまだ装着していますが、日々感謝の毎日です。どうもありがとうございました。今後の貴病院の発展と益々のご活躍をお祈り申し上げます。 敬具



退院調整看護師からの報告

看護部 看護副部長
銭谷 洋子

「退院調整看護師」とはあまり聞きなれない名称ですが、どういう仕事なのでしょう。看護師の業務の中には、入院患者の退院に向けた環境を整える退院調整というものがあります。この退院調整を専門に行う看護師を退院調整看護師といいます。私たち退院調整看護師は、今春より各病棟や外来に1名以上配置することになり、現在6名が患者さんの退院支援と調整・退院後のフォローアップに向けて援助しています。

退院調整看護師は、病棟では、患者さんの退院支援が難しいと思われるケースについて介入しています。そのため、院内の多職種や地域のケアマネージャーさんと話し合う機会が大変多くなりました。外来退院調整看護師の場合、退院後の患者さんのフォローアップや入院予定の患者さんの情報を早く病棟看護師にキヤッチしてもらおう役割も出てきました。

看護師は、気になる患者さんの退院後の様子を知りたいと思っています。私たちは、年に3回ランチョン研修会を開き、退院した患者さんの元気な生活を報告する場を設けています。今後とも患者さんと御家族が安心して笑顔で地域に戻ることができるよう援助していきたいと思っています。



TOPIC

秋季防衛訓練

10月13日に白山野々市広域消防本部のご協力のもと、秋季防衛訓練を行いました。今回は5病棟で夜間に出火したという想定の実演を院内の防災委員会が中心となり計画しました。実際の火災時に、訓練同様の行動が取れるよう日々、防炎の意識を高め、なによりも「火災を起こさない」環境を作り上げていくことが大切だと思いました。



TOPIC

健康ふれあいフェスタ2016

9月19日に松任天祥閣で「健康ふれあいフェスタ2016」が開催されました。当院の山本副院長による「生活習慣病と脳卒中・認知症」の講演会や当院の患者・職員満足向上委員会による健康測定や健康相談が行われました。朝早くから1000人もの地域の方々にご参加いただき、特に血流測定などの人気コーナーでは長い行列ができていました。血管年齢やストレスチェックの結果に、皆さん興味津々でした。ふれあいフェスタを通して、地域における当院の役割を知るとともに、職員一人が担う役割を再認識することができ、とても貴重な機会となりました。

